

特集

農学部創立90周年記念

農学部創立90周年記念事業

理事長 津谷 好人

昨年、農学部創立90年を迎えるにあたり、農学部と峰ヶ丘同窓会で記念事業実行委員会を立ち上げ、10月27日(土)には記念行事が挙行された。主にその概要について報告するが、記念行事以外に、シンボルマークを募集したり、東野バスの「宇大前」で停車する際に「日本の農学の一翼を担って90年。宇都宮大学農学部は今年創立90年を迎えます。」のアナウンスを1年間行うなど、記念事業をアピールする広報活動も行った。

1 ホームカミング

午前10時より午後1時まで、宇都宮大学峰ヶ丘講堂と峰キャンパスでホームカミングが行われた。全学的ホームカミングの一環として2回目の開催となったが、農学部の参加者が220名と最も多かった。講堂では、各学科・コースの教育研究活動がパネルで紹介されたほか、同窓会の展示コーナーも設けられ、宮城県支部保有のものを含めた高等農林時代等の懐かしい校旗・寮旗、校章、記念品などが展示された。また農学部建物が改修工事中であったため、全学科ではなかったが、卒業生・在校生・恩師との交流等が持たれた。

2 記念植樹

午前11時より、記念事業実行委員会メンバーやホームカミング来訪者等が参加し、進村学長、杉田農学部長、和賀井同窓会長、中根理事（出席者最年長：獣医畜産学科・昭和20卒）によって、峰ヶ丘講堂入口西側に、紅白のヤシオツツジがそれぞれ1本ずつ植樹された。

3 記念講演

午後1時30分から3時30分まで、農林水産省大臣官房審議官櫻庭英悦氏（農業経済学科昭和55年卒）と（株）信州サラダガーデン代表取締役小林豊氏（農芸化学科平成3年卒）

の2人から、スライドをふんだんに用いた興味深い講演をしていただいた。参加者は200名を越える盛況だった。

櫻庭氏からは「白書からみた農政50年」と題し、農水省勤務で50回目の白書の担当で関わった経験から、「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」への農政転換の経緯について、わかりやすく説明していただき、さらに「農林漁業の成長産業化に向けて」の今後の施策（ファンド創設・新輸出戦略・知的財産の活用・再生エネルギー活用）について詳しく紹介していただいた。

小林氏からは、「パプリカを栽培しながら日本の農業・農学について思うこと」と題して、オランダ・韓国からの輸入ものに席卷されているパプリカ市場に果敢に挑戦している、企業家精神に基づいた、ご自身の経営展開について講演していただいた。日本、あるいは長野という、パプリカ生産にとっては必ずしも恵まれにくい自然的・社会経済的条件下において、自らの創意工夫によって、世界最先端のオランダのハウス技術を凌駕するイノベーションを実現している「サラダガーデン」の取り組みは、将来の農業を志す者にとってとても参考になるだけでなく、科学的根拠に基づく技術開発のあり方は、農学者にとっても大いに刺激となる内容だった。

4 記念式典

記念式典は大学から場所を移して、JR宇都宮駅東の宇都宮ポートホテル・グランドボールルームで、午後4時30分から5時10分に挙行された。記念行事の中では参加者が約250名と最も多かった。

夏秋評議員の開会の辞、宇都宮高等農林学校校歌演奏オープニングの後、杉田農学部長の式辞、進村学長の挨拶に続いて、文部科学省高等教育局専門教育課長内藤敏也様および栃木県知事福田富一様から祝辞をいただいた。

杉田学部長は式辞の中で、「我校は、農林業の革新、農業振興のために研究を行い、教育することを重要な責務としている」という初代校長佐藤義長の建学精神に則り、地域に根差し地域とともに歩む、「地の拠点整備」が実践されているものと自負しているが、自信ある未来づくりの学府として発展させる想いを新たにすると述べた。

進村学長は、農学部はこれまでコシヒカリの開発、カラスの研究、植物枝分けホルモン研究等で有能な人材を輩



当日受付の様子



ホームカミング会場入口



同窓会の展示コーナー

出してきたことを指摘した上で、今後、大学改革実行プランの具体化に向けて主体的に改革に取り組んでいきたいと、挨拶した。

また内藤氏からは、5学科への学科改組を踏まえ、「21世紀の農林業、食料、環境の課題解決、健康で豊かな生活の実現への貢献」に向けて教育研究の一層促進されることを期待する旨、福田知事からは、これまで県として農学部の卒業生や先生方にお世話になっているが、今後とも優れた人材を輩出して貢献していただきたい旨の祝辞をいただいた。

その後、祝電披露、物故者追悼、校歌斉唱を行い厳粛な雰囲気の中、式典は閉じられた。

5 祝賀会

記念式典に続いて、ポートホテル・ルシールの間にて、午後5時30分から7時30分まで、賑やかに祝賀会が行われた。

齋藤評議員の開会の辞に続いて和賀井同窓会長から、式典が滞りなく終わることができたこと、引き続き多数のご臨席賜ったことへのお礼と今後更なる母校の発展に貢献したいとの挨拶があり、続いて、吉田公一衆議院議員（畜産学科昭和38年卒）と谷博之参議院議員（総合農学科昭和41年卒）からは、それぞれ学生時代のよき思い出と国政で頑張っていきたい旨、さらに船田良東京農工大学大学院連合農学研究科長より、今後も連携して未来を築いていきたいとの祝辞をいただいた。

続いて親子三代農学部出身者、岡本家（安一・旧農学昭和9、治房・農昭和33、幸恵・林昭和59）、木村家（正之助・旧農大正15、修一・化昭和25、美佳・畜昭和61）、関田家（末吉・旧林昭和10、紘一・経40、芳子・経平成1）の表彰式が行われ賞状と記念品（西功一・経51卒作陶器）が送られた。祝賀会場にいた皆が敬意を払い、心からお祝いの拍手を送り、この表彰式のおかげで会場がとても和やかな

雰囲気になったように感じた。

鏡割りの後、祝賀会参加者最年長の卒業生、押久保二男氏（獣医畜産科昭和19年卒）の音頭で乾杯となり、歓談となった。200名を越える参加で会場は狭いほどであったが、親子三代を囲んでお祝いの言葉を述べたり、旧交を温めたりといった中、記念歌「90年の歌」（次頁に歌詞等掲載）が作詞・作曲家、山口貴大氏（生物生産科学科動物生産学コース平成21年卒）によって披露されると、特に現役学生や若い同窓生がリズムに乗って携帯写真をとるなど、絶頂の盛り上がりとなる。しかし、名残惜しい中、最も遠くから参加した卒業生、谷口憲治前鳥取大学農学部長（経昭和45年卒）による万歳三唱で閉会となった。

なお、祝賀会参加者には記念品として農学部附属農場の米、「ゆうだい21」500gが配られた。

6 記念事業会計の概要

収入は、農学部より約344万円、同窓会より100万円、同窓会栃木県支部より40万円、広告掲載料67万円、祝賀会会費127万円、個人寄付約68万円等で、約746万円でした。

これに対し支出は、記念誌・小冊子（当日パンフレット）などの印刷費、郵送・通信費、消耗品等約131万円、広報経費約50万円、式典・講演会約32万円（会場費、謝金、旅費等）、祝賀会関係（宴会費、記念品代、祝辞者旅費等）約157万、親子三代・シンボルマーク表彰及び記念ソング関係約29万円、記念植樹約8万円、学生アルバイト謝金約37万円、農学部90周年史100万円（未執行）などを含め、総額約546万円だった。

残額は、本事業実行委員会で検討の結果、農学部の教育・研究支援費として使わせていただくことになった。

最後に、本記念行事に参加していただいた方々、寄付や広告掲載などで資金的に援助して下さった方々、準備にご協力いただいた方々等に、厚くお礼を申し上げる次第である。



同窓会の展示コーナー



学科の展示



記念式典会場

第3回ホームカミングデー開催決定のお知らせ

宇都宮大学

第2回ホームカミングデー開催の折には、多くの卒業生の皆さんにご来学いただき誠にありがとうございました。ご参加いただいた方からは大変ご好評を賜り、また大変ありがたいことに次回以降の開催を望む声も多数いただきました。そこで、第3回ホームカミングデーを、平成26年の大学祭開催期間中（平成26年11月予定）に開催することといたします。日程や行事の詳細につきましては現在検討中ですが、今後、決定次第随時同窓会報や本学ホームページなどで情報提供してまいります。今回ご参加いただいた方も、残念ながらご都合によりご参加いただけなかった方も、また本学に「お帰り」いただき、懐かしいキャンパスをお楽しみいただければ幸いです。ぜひご期待ください。



作詞・作曲：山口 貴大
Keyboard：モチヅキヤスノリ

どんな未来を描いていましたか？90年後の未来
その答えが今ここにある
あなたが残した足跡を道標にして今も
峰ヶ丘で農学は歩み続けている
どんなに世界が変わっても生命をはぐくむ使命を
伝えていくんだこれから先もずっと
輝ける未来を描き続け今日も90年のその先を光で照らしていく
変わっていく世界に農学で切り拓いていこう新たな時代を

遠い未来もいつの間にか目の前に広がるこんなふうにして今がある
生きとし生きる生命たちと関われることの喜び
誇りを持ってこれからも歩いていこう
どんなに時代が変わっても環境と共生していく使命を
伝えていくんだこれから先もずっと
輝ける未来と輝かしい歴史を新たな想像と発見で僕らが繋いでいく
変わっていく世界に変わらず生き延びていくための力になれるから

峰ヶ丘に高く澄み渡る秋空のように
今もここに変わらず根付く農学
宇都宮大学農学部がこうして記念すべき90周年を迎えた今日

愛すべき母校の更なる発展を願って歌うよ
輝ける未来を描き続け今日も90年のその先を光で照らしていく
変わっていく世界に農学で切り拓いていこう新たな時代を

やまくち たかひろ
山口 貴大さん
(生物生産科学科動物生産学コース H21卒)
山口貴大さんの活動状況については
以下のホームページをご覧ください。
<http://rouleur.jp/yamaguchi/>

Mini album 「ひだまりの魔法」
Amazonにてオンライン販売中！
i-tunes/viBirth/GIGAフルにて配信リリース中！
とちぎテレビ「高校野球栃木大会ハイライト」
2011年夏エンディングテーマの『夢の途中』を含む、
自らもシンガーソングライターとして活動する
小林建樹氏をプロデューサーに迎えた新曲など、
全6曲を収録。

皆さん、応援よろしくお祈りします！！
「90周年記念歌」に関するお問い合わせ先
峰ヶ丘同窓会事務局
028-649-5400

ショールームができました

2013年3月に農学部中棟と東棟の改修工事が終わり、表紙写真のように新しくなりました。正面玄関脇には農学部のショールームが設置され、同窓会縁の品々の展示もあります。ご来学の際には是非ともお立ち寄りください。



理事長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会理事長 **金子 幸雄** (農昭47卒)

平成25年度の峰ヶ丘同窓会理事会において理事長就任が承認され、お引き受けすることになりました。とても不適任な私であり、責任の重さをひしひしと感じております。

私は、昭和47年に農学科を、同49年に農学研究科修士課程を修了しました。その後千葉県農業教員として17年間、農業教育に携わってきました。平成4年の春、生物生産科学科植物育種学研究室の松澤先生(現名誉教授)のもとに、講師として赴任させていただきました。赴任直後の農学部創立70周年をはじめ、80周年、そして昨年の90周年を同窓の一員として迎えて参りました。

現在の同窓会を見ますと、入学時の新入会員数が決して多いとはいえないと思っております。入会者をより増やすような方法、同窓会の魅力や同窓の絆を早く醸成するにはどうしたらよいかなど、常任理事の皆さんと考えたいと思います。

また、同窓会名簿は、個人のプライバシー保護の関係から、住所や職業あるいは電話番号などを記載しない方々も出てきております。さらに同窓会報も、インターネットの発達に伴い、大学のホームページ上で見られるなど、紙媒体による会報のあり方など、今置かれた同窓会の運営や財政など、検討しなければならないことがあります。このためには、若い学生評議員の皆さんの意見を聞くとともに、会員の皆様のご意見をいただきながら進めたいと考えております。

最後に、同窓会の日常業務も常任理事の先生方と事務の多田さんとともに円滑に進めて行くよう努力いたします。しかし同窓の先生方の数も減少しており、常任理事会の運営も検討する時期でもあります。以上のようなことを考えながら頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。